

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第5回） 議事録

会議名	安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第5回）
日時	令和6年12月24日
出席者 (敬称略)	<p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 安平町 町長 及川 秀一郎 • 安平町 副町長 田中 一省 • 安平町 教育長 井内 聖 • 安平町商工会 会長 小林 正道 • 安平町誘致企業会 会長 島田 裕之 • 安平地区連合自治会 会長 佐々木 弘 • 早来地区自治会連合会 会長 山下 美樹 • 遠浅地区自治会連絡協議会 会長 山田 強 • 追分地区町内会連合会 会長 真保 立至 • 且見 暁 • 宮崎 晃行 <p>【アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授 山中 康裕 (WEB 参加) • 北海道地方環境事務所地域脱炭素創生室 再エネ促進区域 推進専門官 川村 華・服部 夏(代理・WEB 参加) • 北海道銀行 安平エリア統括早来支店長 山内 淳 • 北海道ガス株式会社環境・地域共創推進部地域連携推進グ ループ マネージャー 宮澤 智裕(WEB 参加) • 北海道電力株式会社 道央南統括支社長 吉田 耕也 • 北海道電力ネットワーク株式会社 道央南統括支社長 黒 須 僚子 <p>【事務局】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> • 安平町 税務住民課 参事 佐々木 智紀 • 安平町 税務住民課 課長補佐 畠山 津与志 • 安平町 政策推進課 課長 渡邊 匡人 • 安平町 税務住民課（ゼロカーボン推進員） 岸本 佳也 エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 高島 誠太郎 • エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 中尾 敏夫 • 株式会社 DG ネットワーク 事業アドバイザー 北野 史人 • 株式会社 DG キャピタルグループ 事業アドバイザー 藤井 正輝（WEB 参加）
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> • 安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第 5 回） • <別紙 1> 安平町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定事業説明（第 3 回） • 広報あびら 12 月号 あびらの脱炭素

1. 開会

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会設置要綱第 6 条第 1 項の規定に基づき、及川町長が議長となった。

及川町長から挨拶が行われた。その中で、前回協議会で報告のあった EV 普通充電器については設置が進み、設置済み箇所では使用頻度も多いこと、大東建託のいい部屋ネット 街の幸福度ランキング 2024〈全国版〉で、安平町が全国 5 位になったこと、町の LINE がリニューアルしたこと、コンビニや郵送で取れる証明書が増え、行政サービスの向上したことが紹介された。

また設置要綱に第 6 条第 2 項の規定に基づいて本会が適正に開催されたことが説明された。

2. EV 普通充電器の設置状況について（報告）

事務局より、EV 普通充電器の設置状況について、公共施設 9 箇所への設置が完了したことの報告があった。加えて、各箇所の運用状況についての報告があった。

3. ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有について（報告）

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第 5 回）」並びに「広報あびら 12 月号 | あびらの脱炭素」に基づいて報告が行われた。

4. 安平町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定について

事務局より、「<別紙 1> 安平町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定事業説明（第 3 回）」に基づいて説明が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

【意見交換・質疑応答】

- 私たちは地区の代表として本協議会に参加しているが、この協議会で話し合われたことを地区の方々に伝えていくという流れがまだできていないように思う。例えば、家庭から出るゴミの分別が進んでいるのは確かだが、ゴミの量そのものを減らすのも大切なこと。そういったことを伝えられるもっと柔らかい表現のプリント等があると地区の方々に伝わりやすいと思うし、集まった時のそういった話ができる方が良い。（委員）
 - フィードバックのチラシと言うのは、正に資料の中にあった広報あびら 12 月号のようなものをご活用いただくと良い。また、何か集まりのある時には声をかけていただければ、町としても出席をさせていただいて情報提供をさせていただきたい。（議長）
 - ゴミの量を減らしていくことは非常に重要な取り組みだと思っている。今年度中にゴミの分別ガイドブックを新しくし、QR コードをつけて多言語対応にしたり、英語表記のダイジェスト版を作成し

たり、そういったわかりやすい資料作成も行政では進めているところである。(議長)

- 農地の部分で、太陽光発電を行う際の「悪影響」とはどのようなものがあるのか？(委員)

➤ ソーラーシェアリングが出てきた当初は、そもそもどんな作物が適しているかという知見もなかったが、FIT 制度ができてからは農林水産省からガイドブックも出てきたりしていて、農業従事者の方や農業委員会の皆さんと話をさせていただきながら適切に実施していける状況になってきている。資料にもあったが、牧草地に垂直型のパネルを設置して、機械で草刈りをしていくようなケースもあり、少し障害になったとしても、実施をしていくことは可能であるという説明をさせていただいている。(事務局)

➤ 私の家は和牛を飼育しており、昼間に出ている運動場であれば太陽光パネルの影響はゼロ、むしろ日陰ができて夏の間はプラスになるくらいなので、ソーラーシェアリングのお話をいただいて進めている。アンケートの結果についてはそれぞれ回答された方の感じ方なので推測でしかないが、例えば麦や大豆などの畑であれば、除草剤や殺虫剤を散布する時に、通常は腕を伸ばした機械で散布するが、その作業ができなくなることは想像できる。(委員)

- P17 について、ゼロカーボン推進室はまだ設置していないが、令和 7 年 4 月から設置予定である。職員としては、地域おこし協力隊として今年 7 月から岸本さんが着任している。今後申請予定の重点対策加速化事業が採択に至れば、職員の増員も考えていきたい。(議長)

- スケジュールのところで補足だが、これまで議会にも丁寧に説明を行なってきており、来年 2 月には議会全員協議会を開催し、説明を行う予定である。(議長)

- 公共施設に 1,760kW 設置することを目標としていたが、これはどれくらいの規模なのか？どれくらいのパネル何枚や面積があればこの規模

が確保できるのか？（委員）

- 面積やパネル枚数については手元に数字がないが、昨年に公共施設の屋根等に設置できる太陽光発電の規模を調査しており、この調査で明らかになった設置可能量の内数に 1,760kW は収まっている。（事務局）
- 面積については、屋根の形状や影の具合で一概には言えないが、現在計画しているところは公共施設 20 施設くらいに 1MW 程度設置を計画している。ただし、屋根に置けない部分などはカーポート等も併用して計画している。（事務局）
- 太陽光パネルについては、1kW あたり 10 平米くらいのイメージで良い。1,760kW だと 100m×200m くらいをイメージしておけば良いのではないか。（アドバイザー）
- P14 について、公用車の部分の現状が 0%となっている。今後更新していく公用車についての目標なので現状は 0%ということだと思うが、すでに電気自動車やハイブリッド自動車の公用車もあるので、この点について誤解がないようにした方が良い。（議長）
 - 現状 0%の理由としてはご指摘の通りで、既に電動車の公用車が導入されていることについて誤解がないよう、区域施策編の中に記載する。（事務局）
- 安平町として、こういった計画をちゃんと立てて、粛々と進めていくことは大切である。一方、他の地域と比較したところで、こういった一つの計画を実現していった時に、安平町全体がどんな姿になるのかということイメージしながら、その一部としての計画であるという捉え方をしてほしい。脱炭素や再生可能エネルギーの推進、CO2 の減少ということ以上に、安平町がどのような良い町になるか、という視点で考えていただきたい。（アドバイザー）
- 教育においては「あびら教育プラン」があるが、教育を特徴にまちづくりをしていこうという意図が伝わる。本計画のタイトルについてもこの

ようなものになると良い。ZEH についても家の仕様そのものよりも、地球に優しい、そういう家に住めるというブランドイメージをしっかりと作っていく方が良い。ブランドイメージはとても大事である。農産物についてもスコープ 3 の考え方をもちながら、ブランドイメージを形成していくと良いのではないか。(アドバイザー)

- 細かい部分は粛々と進めていくとして、協議会のような場では「安平町はこういう町になりたい」という戦略的な部分をやっていけると良い。今回の計画では太陽光と EV という特徴が見えてきている。まちづくりの方向性をしっかりと打ち出して、町民の方だけではなく、これから住みたい人を誘致できるブランドイメージがあると良い。(アドバイザー)
- 本協議会は、町長が座長をして、住民の代表の方も参加して話し合いをするというスタイルを採っている。「専門じゃないけれども」という言い方から質問が出ていたが、正にそれが正しくて、安平町のゼロカーボンは住民と対話しながら住民の中で決めていくという姿勢が素晴らしい。実はこれは町内の組織の在り方とも関係していて、横断型の組織を作る時に考慮していただくと良いと思う。(アドバイザー)
- 2024 年が地球温暖化対策計画の改訂期となっており、今回の計画に何か影響があるか、もしわかるようであれば教えていただきたい。(事務局)
 - 国の計画改定には直接関わっていないが、札幌市も計画を改定する必要があり、私が座長となって来月からスタートさせる予定である。再生可能エネルギーを粛々と進めていくのは当然だが、水素利用について実証ということで何か引っ張って来れると良いと思っている。水素はとても重要で、再生可能エネルギーが今後どんどん増えていくと水素について考える必要が出てくる。そういう意味では、水素自動車や水素社会という項目を一つ入れるとアピールにはなると思う。(アドバイザー)
- P12 について、公共施設の照明が LED100%になっている施設が全体の

19%ということだったが、既に LED 化されている防犯灯はカウントに入っているのか？（事務局）

- 大型の公共施設については、胆振東部地震の被災三町ということで、あかりみらいと協定を結んで LED 化を進めてきたが、全部ではないのでこれからやっていかないといけない。蛍光管の製造が 2027 年で終了ということもあり、時間をかけられないという背景もある。2 力年で更新していく計画をしているが、引き伸ばす必要があるかもしれない。脱炭素事業債の活用も検討している。（議長）
- 100%LED 化している施設が 19%というのは、昨年度に取りまとめた事務事業編の中で対象としている 70 施設の LED 化率から算出している。対象となっていない施設としては公営住宅やエネルギー使用量がない施設がある。街路灯一本一本という形での分類はされていないようなので、施設の併設されている街路灯についてはおそらく入っていると思われる。（事務局）
- ここら辺は事務局の方で分かりやすい数字の持ち方を資料の中では引き続き整理していただきたい。（議長）

5. 重点対策加速化事業の申請内容について

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第 5 回）」に基づいて説明が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

【意見交換・質疑応答】

- あびらスマートエコタウン事業は庁舎内でも検討している最中のもので、資料の取り上げ方については注意していただきたい。この事業は賃貸住宅を考えている。早来学園入学を目的に転入されてくる方には賃貸住宅で子育てをしながら ZEH 住宅の良さも経験いただいて、その後にはだしの広場の横のところに住宅団地を作っていければ、ラピダスの対応を含めてできるのではないかと考えている。戸建住宅として分譲してしまうとこういった流れができずに、20 年 30 年後に子育て世代がい

なくなってしまう。ゼロカーボンと当然関わりのある事業であるし、今後5カ年の計画の中でやっていくべきものであるので、今回頭出しという形で出させていただいた。(議長)

- ソーラーシェアリングの候補地となっている町有地は指定管理になっていると思うので、該当の部署と詰めていただければ良いと思う。牧草地へのパネルの設置については、採草を続けるとすれば、機械の幅等の調整をしっかりとってほしい。トラクターのGPSは精度が高いが、トラクターを更新する時のことも踏まえて、こういうはずじゃなかったというのが無いようにお願いしたい。(委員)
- 議論は大事で、町民の方にどのように戻していくか、それをどういったスケジュール感でやっていくのか、ということが大切だと思う。町民とのコミュニケーションをきちっとやっていくことをよろしくお願いしたい。(アドバイザー)
 - 環境フォーラム等を開催させていただいて、あびらチャンネルでも町民の方にご覧いただいているので、雰囲気は伝わり出している部分もあるかと思うが、これを続けていながら、広報誌や自治会の取り組みの中で更なる広がりがあれば良いと思っている。(議長)
- ゼロカーボンは手法であって、その先にどういう町を目指すのか、というのが肝要だと思う。主役は町民や企業で、我が町がどう発展していくか、という姿があると共感も得やすいだろう。北海道電力では、苫小牧で水素、アンモニア、CCS、CCUSの事業をしているが、将来的に水素を視野に入れているというのはポイントかもしれない。ソーラーシェアリングについては農業面への悪影響を懸念している人がいらっしゃるが、そういった方々に対する正しい情報提供が重要になるだろう。(アドバイザー)
- 他の自治体に対する勝ち姿・差別化要素というのはどういったものがあるのか？(アドバイザー)
 - 重点対策加速化事業の申請内容の特徴は、ソーラーシェアリングか

ら発電された電力を地産地消することである。安平町は太陽光発電に適していて、農地も多い土地であり、更に垂直型の架台を採用しているところに特徴がある。(事務局)

➤ 交通量が多いところなので、安平町の PR という形でも貢献すると考えている。(議長)

- デマンドバスは他自治体の事例となるが、サツドラが力を入れているので連携をご検討されたいかがか？(アドバイザー)

➤ サツドラについては、ポイントあびらを導入する際に連携を申し入れたが、EZOCA が既にあったので、中期的な検討課題とした経緯がある。バスについては初めてお聞きしたので、今後情報収集させていただきたい。(議長)

- これまでの話でもあったが、目的はとても大事だと思う。重点対策加速化事業の申請に当たっても、やることを増やすよりも、1つのストーリーを通した方が良いだろう。なお、地域マイクログリッドの構築は重点対策加速化事業の対象にならないのではないか？(アドバイザー)

➤ 地域マイクログリッドの経産省の SII がやっている事業の対象であり、確かに重点対策加速化事業ではない。(事務局)

➤ 重点対策加速化事業については、10 億円という上限額があるが、恐らくこれだけで足りるということはないと思うので、経産省であったり、他の補助金も獲得していきながら、まちづくりを進めていこうと思っている。(議長)

➤ 安平町の中では、令和 9 年度から 8 力年を対象とした第三次総合計画の構想を令和 8 年度に作成する予定なので、その中にもゼロカーボンの内容を入れ込んでいきたい。先般議会でも発言があったが、総合計画に書いてあること以上のことを早くやりすぎると心配されることもあるので、ゼロカーボンについても上位計画である総合計画にきちんと反映させていきながら、バランスをとってやっていきたいと思っている。環境省のヒアリングの際に町長も参加して良

いということだったので、まちづくりの観点からも補足ができるか
と知っている。(議長)

- 北海道電力ネットワークでは、系統連系の受付を行なっているが、非常に多くの申し込みが来ている。2030年に向けてまだ5年くらいある状況だが、早めにお申し込みをお願いしたい。(アドバイザー)
- P7について、ZEHの住宅というのはどれくらいの金額で建設できるのか？補助金はどの程度あるのか？(委員)
 - 仕様によってかなり変わるが、4,000万円程度は掛かると思う。国から確か100万円程度の補助がある。(事務局)
 - 町の補助金は財源がなくて行なっていないが、こういった事業を行なっていく際には重点対策加速化事業のような補助を活用しながら、進めていかないといけないと考えている。(議長)
- 子供達にも教えられるような、想像しやすい分かりやすい単位を用いていただけると良い。家一軒で何kWh使っているか、とか、EVにはどれくらいの電気が溜まっているのか、とか。(委員)
 - そこは本当に重要なところで、イメージしやすい資料を作っていただきたい。(議長)

6. その他

山中アドバイザーより、1月11日(土)に開催される日本地域政策学会第9回北海道支部研究大会の紹介があった。

7. 次回協議会について

事務局より、3月25日(火)10:00から次回の協議会を開催予定であることについて説明があった。

8. 閉会